

知恵を耕し、心を耕す授業づくり
～確かな学力の充実と向上を目指して～

「学力向上システム開発校」1年次校
久御山町立久御山中学校 校長 光島 正豪

1 現状と課題

- (1) 平成24年度京都府学力診断テスト（中学校2年）の正答率が50%未満の割合は、国語17.2%、数学25%、英語10%であり、国語と英語で基礎・基本の学習内容が定着していない生徒の割合が高い。また、平成25年度京都府学力診断テスト（中学校1年）の正答率が50%未満の割合は、国語9.8%、算数22.9%と算数で基礎・基本の学習内容が定着していない生徒の割合が高い。
- (2) 学校の授業以外の勉強時間は、平成24年度京都府学力診断テスト（中学校2年）によると30分より少ない生徒の割合が27%、平成25年度全国学力・学習状況調査（中学校3年）では全くしない生徒の割合が26%であり、学習習慣が定着していない生徒の割合が高い。

2 実践の内容

- (1) 授業改善プランの利用と研究授業でのチャレンジ
年間3回R-PDCAサイクルを回し、生徒の実態に合った研究授業の実施を行っている。
ア 毎学期の授業改善プランの作成

1学期の授業改善プラン

Reserch

（実態把握：担当学年に見られる顕著な状況←昨年度の実績及び各種の分析から考えられること）

昨年度実施の京都府学力診断テスト、全国学力・学習状況調査、4月に実施している業者テスト等をもとに実態を各担当者が分析して記入

Plan

（計画立案：実態をふまえた具体的な授業改善プラン←各自で選択したチェックシートの評価項目具現化の方策）

選択した評価項目

項目	記号番号	具体的な内容
共通項目	3	授業チェックシートから選択した項目についての方策を記入
活用型授業	L	
習得型授業	D	

〈具現化の具体的な方策〉 〈家庭学習とのリンクの方法〉

授業チェックシートの評価項目

共通項目			
1	本時のねらいやめあてが明確になっている		
2	学習規律が徹底されている		
3	学ぶ意欲を起こさせる魅力的な授業である		
4	家庭学習へのアプローチがされている		
5	ペアワークやグループでの活動など、互いに学び合う時間を確保されている		
6	自己評価ツールなどを用いて、本時の学習内容についての振り返りがなされている		
習得型授業の項目	活用型授業の項目		
A	習得すべき内容（学習過程の全体）が明確にされ、学習に対する見通しが持てる	G	「教えて」考えさせる授業づくりがなされている
B	本時の自己評価規準・判断基準が明確であり、Bレベル、Aレベルの両方を明示した上で挑戦させている	H	教科書教材の内容を、似たような内容の教材に応用して取り組ませている
C	本時で習得すべき学習内容のポイントが分かりやすく解説されている	I	教科書教材の内容を、生活に題材を求めた複雑なものに応用させている
D	習得すべき内容をパターン化し、練習する時間が確保されている	J	生徒一人一人が考える時間が確保されている
E	学習した内容が理解できているかを確認する機会が確保されている	K	生徒が思考の結果を表現する場が確保されている
F	学習の振り返り、学び直しによる深化と補充の機会が保障されている	L	思考力の育成の手段や学習の振り返りの手段としてICTを効果的に活用している

イ 授業公開週間の相互参観及び「重点項目の実施報告」

選択した評価項目等によるグループ内での相互参観を行うとともに、授業公開週間前3週間の「重点項目の実施報告」を作成している。

1学期の授業改善プラン重点評価項目の実施状況

〈選択した評価項目〉

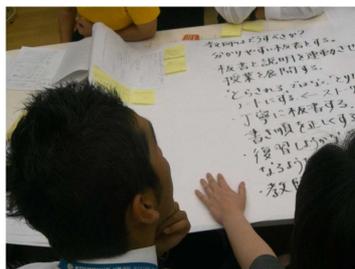
番号	項目	C 改善を要する状況	B おおむね満足できる状況	A 十分満足できる状況
3	学ぶ意欲を起こさせる魅力的な授業である。	生徒が主体的に学習に参加する場面や興味関心を高める発問や教材提示等に乏しい。	導入場面において、生徒が興味関心を持てる教材の提示や展開の工夫が適切に設定されている。	導入のみならず、授業全般に、生徒が興味関心を持てる教材の提示や展開の工夫等がなされている。

〈実施状況〉

週	評価項目の自己評価	具体的な指導内容及び評価の根拠となる事項
5月27日～	共通3…B	1週間の授業を振り返り、授業改善プラン重点評価項目についての自己評価の根拠を記入

ウ 校内研修会の実施

1 学期校内研修会では、E テレ番組テストの花道「成績を伸ばすカギ！ ノート術」の視聴後、生徒が「使えるノート」にするための授業術について、相互参観の評価をもとにグループで協議を行った。



エ 1 学期の授業実践の分析と 2 学期に向けた改善策の検討

夏季休業中に 1 学期の実践を分析し、2 学期の具体的改善策を計画

Check

(点検・評価：1 学期の授業実践の分析→取組の成果と課題)

選択した評価項目を中心に、1 学期の授業を振り返り各担当者が分析して記入

Action

選択した評価項目

項目	記号番号	具体的な内容
共通項目	3	授業チェックシートの評価項目から選択した項目についての方策を記入
活用型授業	L	

〈具現化の具体的な方策〉

〈家庭学習とのリンクの方法〉

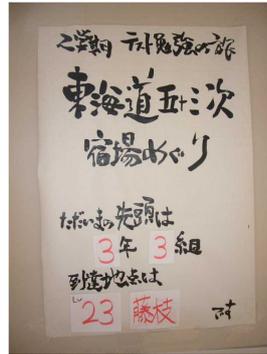
(2) 家庭学習の定着・充実に向けた工夫

ア テスト勉強の旅

今年度から生徒の専門委員会「学習委員」の取組として、定期テスト前の家庭学習時間を集計し、一定の時間を行うと進む「テスト勉強の旅」を実施。1 学期は「全国制覇」、2 学期は「東海道五十三次宿場巡り」を行うことで、家庭学習を行う雰囲気作りを行った。

「目標を達成し、
海外へ進出」





イ 久御山検定

「生徒の意欲のサイクルを意識した検定を実施することで、主体的に学習する態度を育成する。」「学習委員会の取組として事前学習や掲示物を作成することで、学校全体の学力向上に向けた雰囲気醸成する。」ことを目標として、年間4回の土曜活用の日に今年度から実施している。

1回ごとの実施教科は3教科とし 85%以上の正解者を検定合格者とし、検定合格証を発行している。



第一回久御山検定（国語）	
問1 次の——線の漢字の読みをひらがなで書け。	
① 鉄筋の建物が完成する。	
② 運動会で力を十分に発揮する。	
③ 警察の取り調べが始まる。	
④ 看過できない事態になる。	
⑤ 校外学習で貴重な体験をする。	
⑥ 包帯を巻く。	

3 成果と課題

(1) 授業改善プランの利用と研究授業でのチャレンジ

平成21年度から取り組んでいる「教師力向上」のシステムとして「授業改善プランの利用と研究授業でのチャレンジ」があるが、生徒と教師の実態の変化に対応した新たな評価項目等の設定が必要になっている。

(2) 家庭学習の定着・充実に向けた工夫

ア 久御山検定の合格率は、第1回（国語10%、数学24%、理科22%）、第2回合格率（国語25%、英語36%、理科28%）と、少しずつではあるが検定合格に向けた学習に積極的に取り組む姿勢が見られるようになってきた。しかし、生徒の意欲のサイクルを意識した検定としては合格率が低く、問題の難易度や事前取組に課題がある。

イ 「テスト勉強の旅」は、試験前の家庭学習の取組として定着してきているが、日常的な家庭学習への手立てが十分でないため、約25%の生徒が30分未満の家庭学習にとどまっている。